

風水害に備えよう

今年も集中豪雨や台風などによる風水害の多い季節が近づいてきました。

梅雨の時期では、梅雨前線による大雨や長雨などにより、河川の氾濫や土砂災害が発生しやすくなります。中でも短時間に狭い地域に集中して降る「集中豪雨」には特に注意が必要です。集中豪雨は突発的に降るので予測が困難であり、時に大きな被害をもたらすことがあります。

そのような風水害に対して日頃から備えておくことや、被害を未然に防ぐ知識などを紹介します。

少しでも危険を感じたら自主的に避難するようにしましょう。

【知る】

●地域の状況を知る

お住まいの地域で過去に起こった災害などを知っておくことが大事です。自主防災組織などで危険な場所、避難場所、避難経路など

を確認・点検し、落ち合う場所を決めておきます。

●気象情報など情報の入手

台風の接近時や雨が降り続いたりした時などは、テレビやラジオで気象情報を収集し、十分注意しましょう。※雨量などに関しては左図を参照ください。

【備える】

●非常持ち出し品の確認

飲料水や食料、避難のために必要なもの（懐中電灯、ラジオ、衣類など）、個人ごとの必需品（持病の薬、生理用品など）を確認しましょう。

●住まいの点検

- ・瓦やアンテナは固定されているか
- ・雨どいが詰まっていないか
- ・外壁に亀裂はないか
- ・窓ガラスにひび割れ、がたつき

雨量と水害

1時間に20ミリ以上の雨が降ると、地割れや地表が流されたり、ガケ崩れの危険が予想されます。



1時間雨量
5～15ミリ

・地面に水たまりができ、雨の降る音が聞こえる。



1時間雨量
15～20ミリ

・地面一面に水たまりができ、雨の音で話がかたかた聞かれない。



1時間雨量
20～30ミリ

・いわゆる土砂降り状態で下水があふれる。



1時間雨量
30ミリ以上

・バケツをひっくり返したような雨が降る。

はないか

【行動する】

●風水害時の避難の注意点

- ・動きやすく安全な服装で、足元は運動靴にする
- ・道路などが浸水してしまつたら側溝などが確認できないので、杖を持って足元を確認しながら歩く
- ・単独では行動せず家族や近所の人と行動する
- ・避難勧告などが出ていなくても危険を感じたらすぐ避難する
- ・避難の呼びかけを待って行動するのではなく、危険を早めに察知し、正しい情報に基づき早めの対応を心がけましょう。家族や地域で協力し合い、対応することが被害の抑制につながります。

四万十黒潮旅館組合と大規模災害時における支援協定を締結

4月4日(火)に四万十市役所で四万十黒潮旅館組合と大規模災害時における支援協定を締結しました。南海トラフ地震が発生した際には、町内でも多くの避難者が発生し、避難所の収容数が不足することが想定され、その場合は近隣の宿泊施設に避難者の受け入れをお願いする必要があります。

今回の協定では、黒潮町をはじめ、四万十市、三原村の3市町村が出席し、ホテル・旅館などを避難所として利用することや、保有する食料、水などを提供することが記載された協定書に調印を行いました。本協定により、大規模災害時における避難生活の早期安定が図れることが期待されます。

